

亡き人に『生きる喜びを知れ』と見守られている、この私

●お盆は『先祖供養』になつてますが、仏となられたご先祖を偲(し)のびつつ、仏法に遇いましょう。

◎お盆は、ウランバナ(梵語=イングの古語)を『盂蘭盆(中國語)』に直したもので、『倒懸』=逆さ吊りの苦しみの意味です。眞實に背いて、逆さま事をしているから、『人生は苦である(お釈迦様)』。●お釈迦様が居られた約2500年前、雨季が明けた7月15日私は、この1年間眞實に背いた生き方をしていなかつたか』を自己反省し・周りの人にも自分の誤りを指摘してもらひました。■だから、お盆は、『逆さまになつて生きていた人間が、眞實に生きるように』と反省・懺悔する日なのです。

(1)私たちは『得か損か・味方か敵か・勝つた負けた』の濁つた世の中で生きています。(2)世間の物差しで計り、「若くて元気は善い・歳を取つて病気は悪い」と決めつけて、『お前はダメだ』と排除し、最後は『歳を取ると値打ちが無い私』と見捨てたりします。

(3)人間は『自分と考え方方が違う人は邪魔物だ』と思ひ、差別し・イジメたりします。(4)極楽浄土は、『皆一人一人が主人公で、端っこに追いやられる者は無く、青色青光・黄色黄光・赤色赤光・白色白光と個性を發揮し・全てが光り輝いている世界』です。

(5)「仏法が無くとも生きられる。生きて行くには『煩惱・欲望・私の根性』は無くならない」と考える私です。また、厳しい現実では、様々な物差し・価値観が押し寄せ、私の心は揺れ動くが、『煩惱一杯の凡夫』と目覚めて、浄土の教えに従つて生きて行くようにしないと、『周りの人々と共に、生きる喜びを知る』ことができないと思ひます。

★『先祖あればこそ、私が今ここに生きている。仏となられた亡きご先祖に、常に見守られているのだ』と自己反省し・懺悔するための行事が、お盆なのです。

①関西のお盆は、今年の新暦の8月(昔の旧暦の7月)13~15日。東京は7月です。②日本では仏教传来(西暦600年頃)以前から、夏と正月の2回に、『先祖まつり』がありました。現在、夏は『お盆と・敷入り(草深い故郷へ帰る)』の行事と、正月は『お節(季節)料理と・初詣で』の行事として残っています。

③仏教と共に『盂蘭盆經(目連と母の物語り)』が輸入され、『施餓鬼(飢餓に苦しむ亡き人の靈に、飲食を施す)』と、盆踊り(母が助かつて喜んだ目連が踊り・周りの人々も一緒に踊った)の行事が始まりました。

④平安時代(西暦800年頃)から、8月16日の夜に『京都五山(大文字・妙法・舟形・左大文字・鳥居)の送り火』が始められました。

⑤真宗門徒は、『迎え火・送り火(灯籠流し)・施餓鬼・お茶湯』などはせず=門徒もの(忌み・嫌う)知らず、『(自己)反省・懺悔の日』がお盆なのです。